

## 温泉寺

下呂の丘に位置する温泉寺は、地元の人々を導いて下呂温泉を発見させたと言われている、薬と癒しの仏陀、薬師如来に捧げられたものです。地元の言い伝えによると、1265年に起きた大地震で湯ヶ峰近くの温泉からの水の流れが止まりました。その後、地元の住人らが飛騨川の上を毎日飛ぶ白鷺に気付き始めました。彼らは、怪我をしている様子だったこの鳥を追いかけて、ついには、天然温泉の中で傷を癒しているのを見つけました。白鷺が休憩しに止まった丘の中腹の松の木の下で、人々は薬師如来の像を見つけました。その時から、彼らは仏陀が新たな泉源を彼らに示すために、白鷺の姿になったのだと信じました。山の高い場所ではなく、平坦な土地で新たな温泉が見つかったことで、温泉にアクセスしやすくなりました。下呂は結局、日本三大温泉街の1つとして認知され、人気のリゾート地になり、温泉に入ることによって病気を治したいと願って来る人々を魅了しています。ありがたい気持ちになった訪問客は、温泉寺を訪れ、薬師如来に敬意を表することができます。

温泉寺の広々とした境内は、鮮やかな赤の楓の葉が夜にライトアップされる秋に最も壮大な姿を見せます。寺は中根山の上、温泉地区の地藏堂から173段の石段を上ったところにあり、参拝者にこの地区とより広範囲の下呂の町のパノラマ風景を見させてくれます。身体の病気に悩まされている参拝者は、病気を治すと言われている像である本堂前の湯掛薬師像に立ち寄りたいところです。参拝者は、病気を抱えているのと同じ像の場所にお湯を掛けて、治癒を願います。